マンション管理情報新聞

12月1日
《第186号》
2000年（平成12年）
毎月1日発行

●発行所／㈱マンション管理情報研修センター
●発行者／佐藤　豊一
〒108-0073 東京都港区三田2-14-7 ローレル三田604
☎03-3798-3351　FAX03-3798-4654
年間購読料　6,000円

給水管のページ

NMRパイプテクターに注目！

米ＮＡＳＡの技術採用

給水管の赤水対策には各種の方法がある（表1）。

①配管を新管更新工法は、既存の給水管を撤去して新しい管に取り替える。②被覆する管更生工法は、既存の給水管の内側に樹脂などを塗布して管を更生する。③新技術評価工法は、建設省が新技術として評価した工法。

④電気式防錆法、⑤光工学式防錆法、⑥機械式配管防錆法、⑦電子磁気型式防錆法は、いずれも電気や磁気の力で赤水の発生を抑制する。

⑧カルシウム等添加法は、給水管内に水酸化カルシウムなどを注入して赤水の発生を抑制する。

⑨NMRパイプテクターは、給水管の内側に特殊な磁石を設置して赤水の発生を抑制する。

アクアテクションの結果（表2）は、昭和62年に新技術適用評価研究として、建設省が実施した。

表1　給水管の赤水対策工法の比較

工法名	工法の問題点	設備・工事費用比較
①配管を新管更新工法	錆べい部は工事が困難	工事費用が最も高い
②被覆する管更生工法	専有部に入り工事をする	工事費用は更新の3分の1程度
③新技術評価工法	効果が不明確	工事費用は更生の3分の1程度
電気式防錆法 光工学式防錆法 機械式配管防錆法 電子磁気型式防錆法	効果が疑問 残留塩素が減る 酸素が残る 長寿命効果か？	（中空糸式に移行）
⑧カルシウム等添加法	錆の除去は進めない	工事費用は①と同程度
⑨NMR パイプテクター	管に発生錆塊を巻くだけ 問題点なし（新技術のため知名度低い）	工事費用は更新の10分の1、更生工法の3分の1程度

表2　アクアテクションの結果（昭和62年新技術適用評価研究）

工法名	工法の内容	調査実施結果の評価
電気式防錆法	電磁＋石英混合	錆発生抑制は不明確、寿命の長寿命効果か？
光工学式防錆法	オゾン水処理＋紫外線	水質改善は疑問、塩素減が顕著上問題
機械式配管防錆法	脱気＋振動＋管路循環	脱気の効果は不明確、循環長寿命効果か？
電子磁気型式防錆法	微小電流による電解	電子線の効果は不明確、長寿命効果か？

配管を透過、錆を還元し安定化

公共施設などで積極活用

更新の1／10、更生の1／3の費用で

給水管の赤水対策には各種の方法がある（表1）。

①配管を新管更新工法は、既存の給水管を撤去して新しい管に取り替える。②被覆する管更生工法は、既存の給水管の内側に樹脂などを塗布して管を更生する。③新技術評価工法は、建設省が新技術として評価した工法。

④電気式防錆法、⑤光工学式防錆法、⑥機械式配管防錆法、⑦電子磁気型式防錆法は、いずれも電気や磁気の力で赤水の発生を抑制する。

⑧カルシウム等添加法は、給水管内に水酸化カルシウムなどを注入して赤水の発生を抑制する。

⑨NMRパイプテクターは、給水管の内側に特殊な磁石を設置して赤水の発生を抑制する。

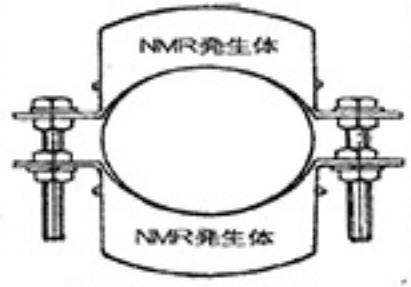
アクアテクションの結果（表2）は、昭和62年に新技術適用評価研究として、建設省が実施した。

表1　給水管の赤水対策工法の比較

工法名	工法の問題点	設備・工事費用比較
①配管を新管更新工法	錆べい部は工事が困難	工事費用が最も高い
②被覆する管更生工法	専有部に入り工事をする	工事費用は更新の3分の1程度
③新技術評価工法	効果が不明確	工事費用は更生の3分の1程度
電気式防錆法 光工学式防錆法 機械式配管防錆法 電子磁気型式防錆法	効果が疑問 残留塩素が減る 酸素が残る 長寿命効果か？	（中空糸式に移行）
⑧カルシウム等添加法	錆の除去は進めない	工事費用は①と同程度
⑨NMR パイプテクター	管に発生錆塊を巻くだけ 問題点なし（新技術のため知名度低い）	工事費用は更新の10分の1、更生工法の3分の1程度

表2　アクアテクションの結果（昭和62年新技術適用評価研究）

工法名	工法の内容	調査実施結果の評価
電気式防錆法	電磁＋石英混合	錆発生抑制は不明確、寿命の長寿命効果か？
光工学式防錆法	オゾン水処理＋紫外線	水質改善は疑問、塩素減が顕著上問題
機械式配管防錆法	脱気＋振動＋管路循環	脱気の効果は不明確、循環長寿命効果か？
電子磁気型式防錆法	微小電流による電解	電子線の効果は不明確、長寿命効果か？



NMRプロクテクターの取り付けモデル

給水管の赤水対策には各種の方法がある（表1）。

①配管を新管更新工法は、既存の給水管を撤去して新しい管に取り替える。②被覆する管更生工法は、既存の給水管の内側に樹脂などを塗布して管を更生する。③新技術評価工法は、建設省が新技術として評価した工法。

④電気式防錆法、⑤光工学式防錆法、⑥機械式配管防錆法、⑦電子磁気型式防錆法は、いずれも電気や磁気の力で赤水の発生を抑制する。

⑧カルシウム等添加法は、給水管内に水酸化カルシウムなどを注入して赤水の発生を抑制する。

⑨NMRパイプテクターは、給水管の内側に特殊な磁石を設置して赤水の発生を抑制する。

アクアテクションの結果（表2）は、昭和62年に新技術適用評価研究として、建設省が実施した。

表1　給水管の赤水対策工法の比較

工法名	工法の問題点	設備・工事費用比較
①配管を新管更新工法	錆べい部は工事が困難	工事費用が最も高い
②被覆する管更生工法	専有部に入り工事をする	工事費用は更新の3分の1程度
③新技術評価工法	効果が不明確	工事費用は更生の3分の1程度
電気式防錆法 光工学式防錆法 機械式配管防錆法 電子磁気型式防錆法	効果が疑問 残留塩素が減る 酸素が残る 長寿命効果か？	（中空糸式に移行）
⑧カルシウム等添加法	錆の除去は進めない	工事費用は①と同程度
⑨NMR パイプテクター	管に発生錆塊を巻くだけ 問題点なし（新技術のため知名度低い）	工事費用は更新の10分の1、更生工法の3分の1程度

表2　アクアテクションの結果（昭和62年新技術適用評価研究）

工法名	工法の内容	調査実施結果の評価
電気式防錆法	電磁＋石英混合	錆発生抑制は不明確、寿命の長寿命効果か？
光工学式防錆法	オゾン水処理＋紫外線	水質改善は疑問、塩素減が顕著上問題
機械式配管防錆法	脱気＋振動＋管路循環	脱気の効果は不明確、循環長寿命効果か？
電子磁気型式防錆法	微小電流による電解	電子線の効果は不明確、長寿命効果か？